

実践研究報告

「修学旅行における学び—生き方を考え行動する修学旅行を通して—」

稲沢市立平和中学校

校長 近 藤 慎 二

教諭 村 上 正 鷹

I はじめに

- 1 学校の概要
- 2 本校の教育
- 3 本校のキャリア教育
 - (1) ねらい
 - (2) 稲沢市平和中学校キャリア教育全体計画
 - (3) 現3年生のキャリア教育の実際
 - ① 1年時の実際
 - ② 2年時の実際

II 平成29年度の実践

- 1 修学旅行のねらいと手だてについて
- 2 行程について
- 3 事前の取組
 - (1) ねらいを実現するためのリーダー会の取組について
 - ① スローガン作り
 - ② ルール作り
 - ③ 修学旅行中の学年運営
 - ④ 日常の取組を生かして
 - (2) 班編成について
- 4 修学旅行の実際の取組
 - (1) 新幹線
 - (2) 国会議事堂
 - (3) ディズニーランド
 - (4) 都内コース別分散学習
 - (5) ペンション宿泊
 - (6) 富士自然体験
- 5 事後の取組について

III おわりに

「修学旅行における学び—生き方を考え行動する修学旅行を通して—」

愛知県稲沢市立平和中学校

I はじめに

1 学校の概要

稲沢市は、濃尾平野のほぼ中央に位置している。地質的には、沖積層で地味肥沃であり、気候的にも恵まれ、植木・苗木・盆栽の生産、野菜等の栽培に適した条件を備えており、大都市近郊に位置しながら、水と緑に恵まれている。人口は、13.7万人を有し、市内の中学校には9校、約3,700人の生徒が在籍している。

本校は、市南西部の田畑や住宅、市の公共施設に囲まれた静かな環境にあり、生徒数370人、学級数15学級（通常の学級12、特別支援学級3）の規模の学校である。平成17年4月の市町の合併までは、中島郡平和町で唯一の中学校であり、現在も地域との結び付きが強く、地域の方々から温かく見守っていただいている。地域の行事にも、生徒がボランティア活動に参加している。生徒は、温かく優しい生徒が多く、全体的には穏やかで落ち着いた学校生活を送っている。学校アンケートからは、「学校は楽しい」「友だちと楽しく学校生活を送っている」という肯定的な意見が多いが、「頑張りを認めてもらっている」「人の役に立っている」と感じている生徒が少なく、自己有用感が低いことがうかがえる。また、生徒が、自分の夢や希望を語ること、主体的に行動することについては、徐々に改善されてきてはいるものの、保護者、教師も含めてさらに充実させていく必要があるととらえている。

こうした実態も鑑み、本校の目指す生徒像を「夢や希望を語る生徒」「自ら考え、主体的に行動する生徒」として日々の教育活動の充実を図っている。その一環として、修学旅行を啓発的体験活動としてキャリア教育に位置付けて実施している。

2 本校の教育

平成29年度 学校要覧



稲沢市立平和中学校

〒490-1315 愛知県稲沢市平和町平池七反田5番3地
TEL 0567-46-0524 FAX 0567-46-0523
URL <http://www.inazawa-sio.ed.jp/ihis/>
E-mail js-hiwa@inazawa-sio.ed.jp



1年生	4クラス	107人(男52,女55)
2年生	4クラス	122人(男61,女61)
3年生	4クラス	136人(男68,女68)
特別支援3クラス	5人(男4,女1)	
全校	15クラス	370人



校訓 誠実 努力 感謝

教育目標 生徒のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、社会の発展に主体的に対応し、たくましく生きる資質や能力を身に付けた生徒を育成する。

めざす生徒像

夢や希望を語る生徒	自ら考え、主体的に行動する生徒
活力、温かみのある学校・学級づくり ・励め合い、思いやりのある生活を築く仲間づくり ・秩序のある学級づくり ・所属感や自己実現の喜びを感じる学級づくり ・仲間などを取り入れた異学年交流による学級づくり	生徒が主体となり翻り上げる活動 ・学校行事での生徒中心の企画、運営(学校祭等) ・生徒会活動 ・3年生を送る会、生徒集会、委員会活動等 ・学年レク等でのリーダー会主催の企画運営 ・地域とともに活動するボランティア活動
社会的・職業的自立をめざしたキャリア教育の推進 ・将来の「生き方」を考えさせる総合的な学習の時間の取組 ・3年制を視通した各教科の学習、進路学習の充実 ・教育相談におけるガイダンス機能の充実 ・課題意識をもった行事の実施(職業体験学習・修学旅行)	一人ひとりの心に迫る生徒指導の推進 ・真摯に向き合う生徒の育成 ・「5つの実行」あいさつ、返事、挨拶、清掃、心身の発達 ・スクールカウンセラーと連携した教育相談体制の充実 ・「いじめは絶対に許されない」という意識の徹底
たくましさや育む活動指導 ・目標に向かって自らを高めさせる指導 ・心や体を鍛え、たくましく生きる力を養う指導 ・感謝の気持ちをもちたせる指導	よりよい教育環境づくり ・自ら取り組み、心を磨く清掃活動の推進 ・持ち帰って学習に集中できる環境づくり ・校舎を大切にすることを気持ちよく徹底の育成 ・進んで取り組む「無言清掃」の実施
主体的に学び合う授業 ・思考を活性化させる授業づくり ・学習の促進と振り返りを大切にした授業づくり ・活動してよりよく問題を解決する資質・能力の育成 ・ユニバーサルデザインの視点をもった授業づくり	自分で判断し行動できる力を育む安全教育 ・心身ともに健康な生活を送るための保健・食育指導の充実 ・正しい知識のもと、自分で考え行動できる安全教育 ・自他の命を大切にすることを指導の充実
	保護者・地域・小学校との連携と情報発信 ・平和地区の「仲間づくり活動」への取組 ・学校教員、平和中だより、平和中新聞の発行 ・学校公開は、懇談会の実施 ・学校評価や地域との情報交換の充実

3 本校のキャリア教育

(1) ねらい

生徒自らが現在及び将来の生き方を考え行動できるように、学校教育全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力、態度を育て、キャリア発達（自分らしい生き方を実現していくこと）を促す。

(2) 稲沢市立平和中学校キャリア教育全体計画



身 に 付 け さ せ た い 資 質 ・ 能 力	学年		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
	人 間 関 係 形 成 能 力	社 会 形 成 能 力	○友だちに自分の考えを適切に伝えようとしている。	○友だちに自分の考えを適切に伝えようとしている。	○友だちと助け合うよさを知り、親友と呼べる友だちをもっている。
			○友だちの考えを尊重し、理解しようとしている。	○友だちの考えを尊重し、理解しようとしている。	○親しくない相手とも協力し合おうとしている。
			○親しくない相手でも自分から話しかけようとしている。	○親しくない相手でも考えを受け入れようとしている。	○時と場に応じた適切な言葉遣いをしようとしている。
	規 範 意 識	規 範 意 識	○親しくない相手でも考えを受け入れようとしている。	○周囲の人に感謝の気持ちで接しようとしている。	【生徒アンケート自己評価】
			○周囲の人に挨拶をしようとしている。	【生徒アンケート自己評価】	
	自 己 管 理 能 力	自 己 管 理 能 力	○家庭での約束事の意味を理解しようとしている。	○家庭での約束事の意味を理解し、守ろうとしている。	○社会の中のきまりやマナーの意義を理解し、他者の権利を尊重しようとしている。
			○学校生活のきまりやマナーを理解しようとしている。	○学校生活のきまりやマナーの意義を理解し、守ろうとしている。	【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】
	自 己 管 理 能 力	自 己 管 理 能 力	○社会の中のきまりやマナーを理解しようとしている。	○社会の中のきまりやマナーの意義を理解し、守ろうとしている。	
			【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】	【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】	
能 力	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	課 題 対 応 能 力	○困難に直面したとき、最後まであきらめずに取り組もうとしている。	○困難に直面したとき、最後まであきらめずに取り組もうとしている。	○困難に直面したとき、最後まであきらめずに取り組もうとしている。
			○何が自分にストレスになっているか意識しようとしている。	○困難に直面したとき、前向きに気持ちを切り替えようとしている。	○困難に直面したとき、前向きに気持ちを切り替えようとしている。
能 力	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	課 題 対 応 能 力	【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】	○ストレスを自分なりの方法を考え、解消しようとしている。	○ストレスをよりよい方法で、解消しようとしている。
				【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】	【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】
能 力	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	課 題 対 応 能 力	○直面する課題が何か見つけようとしている。	○課題の解決に必要な情報を集めようとしている。	○課題の解決に必要な情報を選択し、活用しようとしている。
			○問題の解決策を見つけようとしている。	○問題の解決に向けて計画を立てている。	○様々な見方を踏まえて、自分の考えを評価しなおし、根拠のある自分の考えをもとようとしている。
能 力	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	課 題 対 応 能 力	○他の意見との共通点と相違点を見つめようとしている。	○異なる立場や考えを想定して自分の考えをもとようとしている。	○自分に合った進路を選択しようとしている。
			○上級学校の種類について学ぼうとしている。	○自分の職業適性について理解しようとしている。	
能 力	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	課 題 対 応 能 力	【各教科・総合のワークシート・生徒アンケート自己評価】	○近隣の高級学校について学ぼうとしている。	【各教科・総合のワークシート・生徒アンケート自己評価】
				【各教科・総合のワークシート・生徒アンケート自己評価】	

キャリア ア プ ラ ン ニ ン グ 能 力	勤 労 観 ・ 職 業 観	○どんな仕事があるか学ぼうとしている。 ○学級や部活動で人のために何かをしようとしている。 ○産業の仕組みを理解しようとしている。 【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】	○働くことの魅力、苦勞に気づこうとしている。 ○学校行事など人のために何かをしようとしている。 ○産業と職業の違いを理解しようとしている。 【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】	○ボランティア活動など人のために何かをしようとしている。 ○将来、社会のために何かをしようとしている。 ○金融・経済の仕組みを理解しようとしている。 【各種振り返り用紙・生徒アンケート自己評価】
	自己 理 解 能 力 (向 上 心)	○自分のよい面を伸ばそうとしている。 ○自分の得意教科を勉強しようとしている。 ○自分の特性を知ろうとしている。 【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】	○自分の弱い部分を知ろうとしている。 ○自分の苦手教科を克服しようとしている。 ○自分の特性を伸ばそうとしている。 【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】	○目標を立て自分の力を高めようとしている。 ○めざす進路に向けて努力しようとしている。 【教育相談アンケート・生徒アンケート自己評価】

(3) 現3年生のキャリア教育の実際

① 1年時の実際

○ 若狭宿泊学習

国立若狭湾青少年自然の家におけるこの宿泊学習では、次のように3つのねらいを設定した。

- ・ ねらい① 集団生活の基礎・基本となる5つの実行を実践できるようにすること(5つの実行とは本校の生活目標の挨拶、返事、時間、清掃、心得である)
- ・ ねらい② 仲間とのふれあいを通して、互いに協力する気持ちを育てること
- ・ ねらい③ 中学校生活の目標をもち、実現に向けて意欲的に取り組んでいく気持ちを高めること

まず、ねらい①を達成するために、食事、掃除、入浴などの様々な活動の最中に、各学級のリーダーが声掛けを行ったり、画用紙にキーワードを書いて見せたりして5つの実行を実践した。

次に、ねらい②を達成するために、ハイキング(資料1)やカッター漕艇(資料2)、自然に親しむタイム、学年レクリエーションなどに取り組んだ。生徒は、それぞれの活動の楽しさを感じるとともに、「(カッター漕艇では)みんなと声を合わせて、船を前に進めるのが楽しかったです」「ハイキングの時に〇〇ちゃんがかけてくれた、頑張れという言葉



資料1 ハイキングの様子



資料2 カッター漕艇の様子

がうれしかった」という感想をもつなど、仲間と協力することの良さや、仲間の大切さを学ぶことができた。

最後に、ねらい③を達成するために、発志式を行った。生徒は、厳正な雰囲気の中、火の神から受け取ったろうそくの火の前で、将来の夢や目標などの願いとその願いのために中学校で頑張りたいことを誓う「若狭の誓い」を行い、中学校生活の目標を立てた。この「若狭の誓い」は、機会をとらえて振り返らせることで、中学校生活の指針となっている。

○ マナー講座

株式会社アイビーエーの講師の先生より、「夢や希望がもてる自分になろう」というテーマで講演していただいた。生徒には、講師の先生の「夢は今できることではなくて、やりたいこと、叶えたいことだ」という言葉が強く心に残っており、自分のやりたいことについて真剣に考える様子が見られた。そうした話を通して、講演の冒頭に全く夢を書けていなかった生徒が、講演の終盤には 11 個もの夢を次々に書き出せるようになり、その夢に対してどのようにアプローチしていけばいいのか考えるきっかけになった。

○ 総合的な学習の発表会

身近な人へのインタビューや書物による職業調べを通して、分かったことや考えたことを発表した。中には、わざわざ農家や市役所まで出向いてインタビューを行う生徒も見られ、職業に対する関心が高まっていく様子が見られた。模造紙を使った発表では、職業について真剣に考えたおかげで、将来は自分の興味のある職業に就きたいという思いを強くした生徒や、今の自分に足りないものに目を向けて、こ



資料3 発表の様子

れからの中学校生活で意識していきたいことを語る生徒など、様々な発見が見られた。参観者は付箋に感想を書きながら発表を聞き、伝え合ったり、質問をしたりして、発表者とともに職業についての関心や知識を深めていった。

○ 自分を知る活動

自己理解能力の向上のために、KJ法を用いて様々な人の長所や性格などをグループ化し、自分が当てはまるものを考えさせた。その後、自己分析シートを使って自分を分析させた。さらに、クラス全員から「性格・人柄の良いところ」と「がんばっていたこと・よい行い」を書いた紙を受け取る活動を行い、自分が思う自分と他人が思う自分を見比べながら、自己理解を深めていった。このような活動を経てから、資料4のような「心の4つの窓」に自分についてまとめた後、将来の自分に生かせることは何かを考えた。最後に、今までの全ての学習を踏まえ、10年後の自分に手紙を書いた。クラスの半数以上から「優しい・思いやりがある」とコメントされていた生

徒は、その手紙に「私のいいところ、優しく人に接することは今もできていますか。職業は何に就いてるか想像つかないけれど、優しさを生かして、地域の人とか人のためになることをやっていただいいな」と書いており、自分を知ったことで、将来どんな人になりたいか考え始めたことがわかる。

心の4つの窓		
	自分は知っている	他人は知っている
自分は知っている	①解放の窓 (自分も他人も知っている自分)	②盲点の自分 (自分は気づいてないが他人は知っている自分)
他人は知っている	③秘密の自分 (自分にはわかっているが、他人にはわからない自分)	④未知の自分 (自分も気づいてない、可能性を秘めた自分)

資料4 心の窓

② 2年生の実際

○ 職業講話

「津島ハローワーク」から講師の方を招いて、会社の方がどのような人物に来てもらいたいかを中心にお話をいただいた。（資料5）将来就職したときのため、そして1か月後に控えた職場体験のために、食い入るように話を聞く生徒の姿が見られた。挨拶や返事、時間を守るについてお話をされていたため、本校の生活目標である「5つの実行」の大切さを改めて理解し、学校内でさらに意識して「5つの実行」を実践する姿が見られた。



資料5 講話の様子

○ マナー講座

1年時に引き続き、株式会社アイビーエーの講師の先生にお越しいただいた。職場体験と関連させ、「仕事における基本を知ろう」というテーマで、実際に体を動かしながら、相手に好印象を与える表情の作り方や言葉遣い、立ち居振る舞いについて学習した。（資料6）自分が就職したときに使えるテクニックとして話を聞いている生徒や、教わったことを良い友人関係を築くために生かそうとする生徒も見られた。ある生徒の感想では、「人と話すときは、今日教わった笑顔大切に、しぐさや姿勢などにも気を付けて、いろいろな人と話せるようになった



資料6 笑顔をつくる練習

いです」と書いてあることから、コミュニケーション力を高めたいと思うとともに、様々な人と関わりをもっていこうという気持ちが高まったことがわかる。

○ 職場体験活動

働くことの魅力や苦勞、厳しさを体験し、自分は将来何のために働くのかを考えさせるために、夏休みに職場体験活動を行った。事前に目的や体験内容、学習によって得られるものを真剣に考えさせてから、自分自身が体験したい業種を選択させた。生徒は自分で選択した業種の事業所で必要な情報を集め、自分の疑問や質問を伝えながら一生懸命に取り組んでいた。（資料7）職業講話やマナー講座で職場体験先でのマナーや礼儀を学習していたおかげで、各事業所から届いた手紙には、生徒の取り組みを褒めていただく言葉がたくさん書かれていた。



資料7 職場体験の様子（左から歯科医院、自動車部品工場、飲食店）

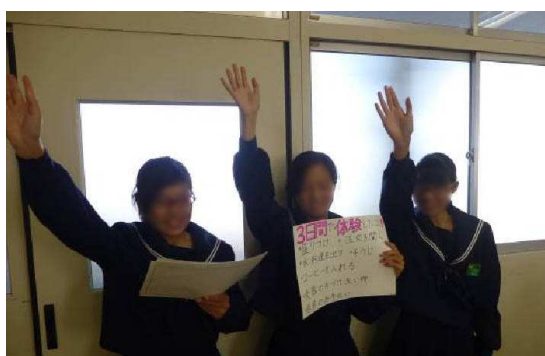
○ 総合的な学習の発表会

職場体験学習などを通して学んだことをもとに、働くことの魅力や苦勞、働く人たちの思いや考えを理解・整理し、将来の自分の生き方について発表した。聞き手が興味をもち、聞き手に伝わりやすい発表にさせるために、発表形式を工夫させ（例：テレビ番組風、ニュース風など）、質疑応答などの互いに交流ができる場面を設定することにした。そして、発表の内容を深めていった。

発表会では、職場体験学習の内容を実演したり（資料8）、コミカルにコント形式で発表したり（資料9）するグループがあった。どのグループも聞き手を飽きさせないように工夫して発表していた。発表の最後には、一人一人が自分の将来の生き方について考えを深め、語ることができた。



資料8 体験内容を実演したグループの様子



資料9 コント形式で発表したグループの様子

○ 立志式

14歳は数え年では15～16歳であり、戦国時代では元服の年齢にあたる。元服以降は全て本人の責任を問われ、失敗すれば切腹という沙汰があったそうである。また、現代においても1

4歳からは少年法が適用される年齢でもあり、大きな節目となる。2年生のこの時期、先輩が入試に向けて努力している時期であり、その様子を目にしているはずである。この時期に、今の自分を見直し、将来の目標を立てさせることは意義のあることである。「立志式」を、『これからの学校・家庭生活での責任を自覚させ、決意表明をさせる場』として位置づけ、3年生進級を前に、家族や自分の周りの人たちへの感謝の気持ちをもたせ、真剣に自分を見直させる機会とした。

上記の内容を踏まえて設定したねらいは、以下の3つである。

ねらい① これまでの学習や生活を踏まえて、
今の自分について、見つめ直すことで、
将来の夢や生き方、今後の学校生活に
対する目標をもつ。

ねらい② 3年生に進級するにあたり、最高学
年としての役割の自覚と、直面する進
路選択に向けて、困難を乗り越えてい
こうとする意識を高める。

ねらい③ 家族など、自分を支えてくれている
周りの人たちへの感謝の気持ちを高め
る。

ねらいを達成するために設けた活動は大きく分けて2つである。一つ目は、「14歳の誓い」である。将来の夢、これからの生活への決意を、生徒一人一人が発表した（資料10）。ここでは、将来就きたい職業についてその思いを語る生徒や自分の理想の人間像、生き方について語る生徒など、立志式までに行った調べ学習やこれまでの自分を振り返る活動を生かした発表をしていた。二つ目は、保護者からの手紙である。保護者の思いを生徒に伝えることで、保護者の方のこれまでのご苦労やお子様に対する思いを噛みしめることができ、自分を支えてくれている存在に思いを致す機会になった（資料11）この2つの活動を通して、3つのねらいに迫ることができた。



資料10 14歳の誓いの様子



資料11 保護者の手紙を読む生徒

Ⅱ 平成29年度の実際

1 修学旅行のねらいと手だてについて

キャリア教育のねらいを踏まえ、修学旅行のねらいを以下のように設定した。

- ねらい① 東京都内コース別分散学習やペンションオーナーとのふれあいタイムを通して、よりよく生きることを考える。
- ねらい② 首都圏ならではの文化を直接見聞したり、富士山麓の大自然の中で体験学習を行ったりすることによって、広い知見と豊かな情操を育む。
- ねらい③ 事前計画での話し合い、及び現地での集団行動を通して、人間関係形成能力や望ましい生活態度を身に付ける。

上記の3つのねらいを達成するための手だてとして、

手だて1. よりよく生きることを考えるふれあいタイム

- ① 職業観・勤労観を養うために、ディズニーランドや首都東京で働く人々の仕事を見学し、インタビュー活動を行う。
- ② 自己の生き方について考えるために、山中湖ペンションで、オーナー自身の体験やたくさんのお客様の人生に接した経験等の語りを聞く。

手だて2. 広い知見と豊かな情操を育む体験学習

- ① 教養を深めるために、国会議事堂、都内コース別分散学習での見学地など、首都東京ならではの施設や名所の見学・散策をする。
- ② 自然への畏敬の念を深めるために、富士自然体験学習を行う。
- ③ 自己の考えを深める事前の調べ学習や事後のリーフレットを作成する。

手だて3. 人間関係形成能力や望ましい生活態度を身に付けるリーダー会の取組

- ① 生徒の主体性を促すスローガン、ルール作り
- ② リーダ会による式、各活動の運営
- ③ 5つの実行をもとにした行動目標の設定
 - ・ 挨拶… お世話になる人たちや出会った人たちの目を見て、きちんと挨拶をする。
 - ・ 返事… 集合時の点呼など、名前を呼ばれたら気持ちのよい返事をする。
 - ・ 清掃… 「来たときよりも美しく」の精神で、自分たちで使ったところはきれいに片付ける。
 - ・ 時間… 「5分前集合」を心がけ、予めしおりで日程を確認して人に迷惑をかけないようきびきびと行動する。
 - ・ 心得… 自分の役割を考え進んで行動し、みんなが気持ちよく過ごせるよう、マナーやルールをしっかり守る。

という3つの手だてを設けて、修学旅行の実践を進めた。

2 行程について

上記のねらいや手だてを踏まえて、以下のような行程で修学旅行を実施した。

平成29年6月7日（水）～9日（金）2泊3日

バス＝＝＝、新幹線――、電車>>>、徒歩・・・で示す。

1日目 [6月7日（水）]

平和中＝＝＝＝岐阜羽島駅――東京駅>>>>>国会議事堂前駅・・・・国会議事堂・・・・
ひかり510号
 7:15 7:50 8:24 10:40 11:01 11:07 11:20 13:20

※昼食は議員会館内で

・・・・永田町駅>>>>>新木場駅>>>>>舞浜駅・・・・東京ディズニーランド

13:41 13:57 14:11 14:16 20:35～21:00 改札前チェック※夕食は各自園内で

・・・・舞浜駅>>>>>新浦安駅・・・・オリエンタルホテル東京ベイ【泊】

最終 21:05 最終 21:10 最終 21:20

2日目 [6月8日（木）]

オリエンタルホテル東京ベイ＝＝＝都内コース別分散学習＝＝＝（首都高速）＝＝談合坂 SA

出発 8:05～8:30 ※4コース(クラス班別) 14:40 集合 16:10 16:25

＝＝＝山中湖(入村式) →各ペンション【泊】（ふれあいタイム）

17:25 17:45 18:00 頃

3日目 [6月9日（金）]

各ペンション＝＝退村式＝＝＝富士自然体験学習＝＝＝馬飼野牧場＝＝＝新富士駅――

7:35 8:00 12:00 頃 12:50 14:40 15:30 16:11

※バス3台

※昼食(ハーフ・バイパス)・買い物

――岐阜羽島駅＝＝＝学校
こだま665号

帰着式

17:56 18:10 18:40 頃 19:10 頃解散

3 事前の取組

(1) ねらいを実現するためのリーダー会の取り組みについて

140名4学級の3年生が、修学旅行のねらいを達成するために、各学級の級長（男女1名ずつ）と代議員（男女1名ずつ）からなるリーダー会を中心に計画を進めていった。主な活動内容は、ねらいに対する3つの手だてをより効果的なものにするための企画検討と実施、修学旅行スローガンの決定、修学旅行中の学年運営を行うことである。スローガンを基に、自分たちで修学旅行を作り上げていき、主体的に行動できるようにしていく。

① スローガン作り

修学旅行のねらいを達成するために、自ら動きだし、主体的に行動できるようにスローガンを作ることにした。各学級でリーダーが、修学旅行のねらいやリーダー会で話し合った思いを語った後、一人一人にスローガンを考えてもらった。そして、学級で意見をまとめて作った案を持ち寄り、リーダー会で検討してスローガンを決定した。以下がそのスローガンとスローガンに込められた意味である。

全力少年 ～Be active～

- ・ 全力少年…5つの実行を修学旅行でも実践し、中学生らしい全力の取り組みを見せる。
全力で楽しみ、全力で体験し、全力で生きることについて考える。
- ・ Be active…自ら行動し、たくさんのことを吸収してくる。平中の「自ら考え、主体的に行動する生徒」を修学旅行でいろいろな人に見てもらう。

② ルール作り

リーダー会では、自分たちで修学旅行を作り上げるために、例年変わっていないルールに対して改良できる点を模索した。細かな変更は何点かあったが、リーダー会が時間をかけて検討し、大きく変更した点は以下の2点である。

【持ち物について】

持ち物の中でも、特にお小遣いの部分の検討に時間が費やされた。例年のお小遣いの設定金額は、10,000円であったが、例年と比べ、分散学習時の食事や電車賃にお金がかかることから、必要金額を見直すことにした。検討時には、「中学生らしい」という言葉が何度も飛び交い、無駄遣いはさせたくないというリーダー会の考えのもと話し合いがなされた。「金額を上げなくてもいい

のではないか」という意見や「活動が変わるのだから上げる方向で検討すべきだ」という意見が挙がった。そこで、個人で必要経費を計算してから、決めることになった。皆の考えた必要経費を回収して、意見をまとめ、リーダー会では、お小遣いを2,000 上げて12,000 円にするために働きかけることを決めた。そこからは、学校でルールの変更を認めてもらえるように「ルール変更依頼書」を作成するグループとルール変更がかなった場合に、どのようにお小遣いの上限を他生徒に守ってもらうかを考えるグループに分かれて活動した。リーダー会の働きかけの甲斐があり、お小遣い12,000 円は了承された。そして、他生徒に対して、リーダー会がお小遣いを上げた経緯や自分たちの修学旅行をより良くするためにルールを守ってほしいということを、掲示物や学級での声掛けで何度も繰り返し伝える活動を行った。

【服装について】

学年でルールについての意見を募集したところ、体操服の枚数に限りがあり、富士自然体験学習や就寝時などに体操服を使う場面で困るため、検討してほしいという意見があった。これを受け、リーダー会では、生徒の体操服の枚数の状況などを調べ、就寝時に体操服以外のジャージやTシャツを許可してもらえるように働きかけを行い、了承された。それからは、お小遣い同様に、過度に派手なものの着用はしないように集会時などに呼びかけ、他生徒に情宣を行った。

このような活動を経たリーダー会生徒の、修学旅行後の感想は以下の通りである（資料12）。

今年は、自分たちで考えた案を先生たちにも協力してもらいながらルールを変えることができました。自分たちで作ったルールだからこそ、みんなに守ってほしいという気持ちが強かったし、修学旅行から帰ってきて、誰からもルール違反の話を聞かなかったことは本当にうれしかったです。ルールを認めてもらうまでにはかなり苦労したけど、みんなから「私たちのためにありがとう」と言われた時には、涙が出そうでした。本当に最高の修学旅行になりました。

資料12 リーダー会生徒の修学旅行後の感想

③ 修学旅行中の学年運営

リーダー会は、修学旅行の出発時に注意点を説明したり、修学旅行に対する気持ちを高めたりするための出発式や、各活動、修学旅行を振り返る帰着式、その他さまざまな場面での司会や進行、また、お世話になった人への感謝を伝える役目をそれぞれが担当した。

④ 日常の取組を生かして

本学年のリーダー会では、日常から以下のことを意識して生活を送っている。これは修学旅行中にも意識させていたことである。

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| ・ 人がどうこうではなく、自らの基準を高くもつこと | ・ クラスをいい方向へ導くために、方向性を示すこと |
| ・ 思いやりをもって、問題を解決しようとする | ・ 自分に厳しく、口だけでなく意思をもって指示を出すこと |
| ・ 一人で抱えず、クラスに助けをもらうこと | ・ インプットなくして、アウトプットなしを心がけること |
| ・ 5つの実行を守り模範になること | ・ 行動でリーダーということを示せること |



資料13 ペンション入村式時の司会を行うリーダー会

(2) 班編成について

本修学旅行では、東京ディズニーランドで行動するディズニー班と都内コース別分散学習で行動するコース別班に分けて活動を行った。ディズニーランドでの班決めでは、班員は学級内で自由とし、人数のみ上限6名というルールを設けた。出来上がった班の人数を見てみると、ほとんどが3、4名の班となっており、5、6名の班は少数であった。班決めの際に、事前に学級で班の編成について話し合ったことで、多くの人が「少ないほうが効率よく回れるのではないか」「偶数のほうが、乗り物に乗る時に困らないのではないか」という考えをもったため、少人数の班が多くなったと考えられる。自分たちで行動のしやすさ、目的をしっかりと考えて班編成を行うことができた。また、孤立する人が出ることはなく、お互いに声をかけあって、思いやりをもって決めることができたこともよかったことの1つである。

また、コース別班は、男女混合の6人班とした。コース別班は、誰とでも互いを思いやり協力して行動することを目的とするため、クラス内のくじにより決定した。さらに、コース別班では以下のような係を設定した。

- ・ 班 長 … 班行動が円滑に進むよう、班員をまとめる。先生との連絡や班のメンバーの集合・整列点呼を行う。
 - ・ 副班長 … 班長の補佐を行う。時間の管理を行う。
 - ・ 資料係 … 分散学習時に必要な資料を携帯し、指示を出す。
 - ・ 美化係 … バス内や施設内の美化活動の中心的役割を果たす。
 - ・ 記録係 … カメラを管理し、分散学習のまとめの際の写真の撮影を行う。
 - ・ レク係 … バス移動時の班内で行えるレクリエーションを企画する。
- 5人班の場合は1人が2つの係を担当した。

4 修学旅行の実際取組

(1) 新幹線の車内

当初の予定では、新幹線内は移動時間であり、インタビュー等の活動は設定していなかったが、ある1つの班の生徒たちが車掌さんにインタビューを始めた（資料 14）ことをきっかけにして、多くの班が自主的にインタビューを始めた。これは、修学旅行スローガンの「Be active」の部分をリーダー会を中心に伝え続けた成果であると考えられる。また、インタビューを行っていたときに、リーダー会が自主的に一般のお客様の邪魔になってないか確認し、注意するように声をかけていた。インタビューでは、職業の苦勞ややりがいなどについて質問し、返答に対し「え？そんなことがあるんですか？」「私も早く働きたいです」という声が聞かれ、仕事に驚きを感じたり、あこがれをもったりしていた。



資料 14 車内でインタビューをする生徒の様子

(2) 国会議事堂

事前に、社会の公民分野の学習として、国会議事堂の役割や働きについて学んだ。

当日、実際に国会議事堂を見学した際には(資料 15)、「ここが教科書に載っていた本会議に使われている場所かぁ」と声に出して感激している姿が見られた。事前に国会議事堂についての知識を得ていたおかげで、興味をもって見学することができた。

見学後に、議員会館で食事をした際には、稲沢市にゆかりのある衆議院議員の方からお話を聞くことができた(資料 16)。質疑応答では、「議員さんは普段何をしているのですか」と仕事の内容について質問するなど、衆議院議員という職業に興味津々であった。

(3) ディズニーランド

事前学習として当日の計画を班で話し合った。ガイドブックやパンフレット、インターネットを使って、当日乗り物に乗る順番を決めたり、イベント内容を確認してどのイベントに参加するか決めたり、昼食やお土産の金額を確認したりした。ディズニーランドでは、インタビュー活動も行うため、事前にインタビュー内容を考えた。各班で行動計画書を作成し、当日に臨んだ。

昼から夜にかけてのディズニーランドでは、ほとんどすべての班が計画したアトラクションに乗り、イベントに参加することができた。中には、余った時間を利用して、本部で再び計画を立ててから、まだ行っていないアトラクションに出かける班もあった。

インタビューでは、ねらいに即して、生きること



資料 15 国会議事堂の見学



資料 16 衆議院議員の方の話



資料 17 班行動の様子



資料 18 英語でのインタビューの様子

の意味を考える活動にすることだけでなく、様々な人と交流して人間関係形成能力を育てようと、英語学習や異文化交流も兼ね、外国人に英語でのインタビューも行った。生徒は、「私の英語が通じましたよ」と嬉しそうに話していた。

ディズニーランドからは、各自が電車でホテルまで移動した。時間に遅れることもなく、全ての班が予定通りにホテルに到着した。5つの実行の1つである「時間」を全員が意識して行動していた。

(4) 都内コース別分散学習

この活動では、東証アローズと羽田クロノゲート、警視庁、ユニセフハウスという4つの見学を行った後、上野・浅草、もしくはお台場に移動して分散学習を行った。

事前学習として、ガイドブックやパンフレット、インターネットを用いながら、調べ学習を行った。資料19のようなワークシートで行動計画を考えさせた。念入りに計画を立てさせたことで、迷ったり、時間に遅れたりする生徒はいなかった。

どのコースも、修学旅行のねらいを達成するために、施設や名所を見学・散策しながら、教養を深めるとともに、インタビューに取り組んでいた。この都内コース別分散学習が終わった時点で、どの班も、日本人へ3名以上、外国人へ2名以上のインタビューを終えていた。(資料20) どのインタビューも仕事の良さややりがい、辛さ、心がけていることを中心に質問し、その回答から、将来の自分がどんな生き方をしたいかについて考えを巡らせる様子が見られた。

修学旅行事前学習② 東京都内コース別分散学習

3年 組 班 氏名 ()

◎ 東証アローズコースの行動計画を立てよう

- ・ 昼食は 40 分。上野地区でとり、活動内容の部分に★印で書き入れる。
- ・ 主な見学施設の中から1か所は行く。40分以上見学しよう。
- ・ ゲームセンターや裏道は入らない。
- ・ MEMO欄にお土産・インタビューなどを記入する。

時間	移動手段 (時間)	目的地(活動内容)	経費 (運賃・入場料)	MEMO
8:05 発	↓ バス	・ ホテル出発 ・ 浅草寺東二天門付近で解散		
8:45 着	徒歩 (40分)	【目的地①】 浅草寺・仲見世通り		
9:25 発	↓ バス	・ 浅草寺東二天門付近に集合		
9:50 着		【目的地②】 東証アローズ		
11:40 発	↓ バス	・ 上野公園クジラ前到着・解散		
12:00 着				
着		【目的地③】		
着		【目的地④】		
着		【目的地⑤】		
着		上野公園クジラ前集合 (14:20～14:35でチェック) 上野公園クジラ前集合完了	【合計金額】+ 予備 1000 円	
14:40				円

平成29年度3年生修学旅行事前学習

組 班 氏名 ()

ガイドブックに負けない！東京観光ルートを作ろう！(上野・浅草用)

2017.4.27

今日の2時間で東京都内コース別分散学習の計画を立てます☆「まる〇る」など各種観光雑誌に負けないような魅力的なコースを考えて、自分たちの修学旅行を自分たちの手で素晴らしいものにしてほしいと思っています。

- 東京都内コース別分散学習のねらい
(1) 都内で働く人の様子を見たり、直接インタビューしたりすることで、自身の生き方や、勤労について考える。
(2) 事前の話し合い及び現地での集団行動を通して、人間関係形成能力を高める。また、公共交通機関や公共の場での過ごし方を考え、行動に移す。
- 当日(6月8日)の東証アローズチームの行程
バス内集合——浅草駅東口……二天門付近(☆本部二天門付近)——東証アローズ見学——8:00 8:05 出発 8:45 8:45 集合——上野駅東口……上野公園クジラ前集合(☆本部上野公園クジラ前)——ペンションへ12:00 14:40 集合
- メインの見学地を決めよう☆(以下の中から選び、行動計画表に記入してね！)
上野……①国立科学博物館 ②東京国立博物館 ③上野動物園 ④国立西洋美術館 ⑤台東区下町家民俗資料館
- その他の見学地の候補を出そう☆
(1) 見学地①
のために へ行きたい。
(2) 見学地②
のために へ行きたい。
(3) 見学地③
のために へ行きたい。
(4) 見学地④
のために へ行きたい。
(5) 昼食候補地①
にある へ行きたい。
(6) 昼食候補地②
にある へ行きたい。
(7) 昼食候補地③
にある へ行きたい。
・ グループなりのテーマをもって見学してはどうか？
例… 江戸の文化や下町の町並み 観光地のバリアフリー
上野アメ横 VS 名古屋大須 芸能人が生きそうな場所
(東証は難しいが…) 浅草食べ歩き！ など
・ ゲームセンターNG。人通りの少ない通りには行かない。
・ お台場(浅草・上野はなし)は、片道だけでも「ゆりかもめ」を使うと便利になる。
5. 解散・集合場所を確認して、実際に行くところを1～2か所選び、見学順を決める。そして、別紙の計

資料 19 都内コース別分散学習事前学習の資料



資料 20 分散学習時のインタビューの様子

外国の人に話しかけるのは、最初は勇気がいりましたが、私たちにもわかる英語で丁寧に接してくれる人が多く、次からはどんどんいけました！日本の人は仕事の良さや辛さどちらも話す人が多かったけど、外国の人は「辛いことなんてない。楽しいよ」と答えてくれる人が多く、私もそんな楽しくできる仕事に就きたいと思いました。

外国人にインタビューしたことについての生徒の感想

都内コース別分散学習の4つの見学先の取組については以下のとおりである。

① 東証アローズ

東京証券取引所を見学するにあたり、事前に株式についての学習を行った。当日は、東証アローズを見学したのち、証券市場の仕組みや機能について、生徒が劇を行いながら楽しく学ぶことができた。(資料 21) その後、上野・浅草で分散学習を行った。



資料 21 株式について学習する様子

東証アローズ 行動計画一覧

行動班																				
組	班	班長名（人数）	8:05	8:45~9:25	9:25	9:50~11:40	12:00	12:15	12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:40		
			出発	浅草散策	二天門集合	東証見学	上野公園到着	国立科学博物館		昼食		東京国立博物館								
								アメ横		上野公園内散策				国立科学博物館						
								アメ横				上野動物園				国立科学博物館				
								アメ横				国立科学博物館				東京国立博物館				
								アメ横 昼食				国立科学博物館								
								アメ横		上野動物園		国立科学博物館								

② 羽田クロノゲート×お台場コース

日本最大級の物流ターミナルを見学するにあたり、事前に物流の発展などについて学習している。当日は、物流の過去・現在・未来について大型ビジョンで学習したり、集中管理室を見学しながら羽田クロノゲートを支える仕組みについて学習したりした。特に生徒の興味を引いていたのは、実際に荷物が目の前を流れて



資料 22 羽田クロノゲート

いく様子が見学できる場所であった。「こんな風になってるの?」「すげえ」という感想が聞かれ、普段見ることのできない物流の裏側に興奮した様子だった。その後、お台場で分散学習を行った。

羽田クロノゲート 行動計画一覧

行動班			8:30	8:45~11:40	12:10	12:15	12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:40
組	班	班長名(人数)														
			ホテル出発	羽田クロノゲート見学	お台場フジテレビ広場前到着・解散		ホテルダイバーシティ東京プラザで昼食			ソニーエクスプローラーサイエンス				チェック		
							アクアシティお台場ハワイアンボウルで昼食			ソニーエクスプローラーサイエンス				チェック		
							デックス東京ビーチで昼食 フジテレビ見学			日本科学未来館		パレットタウン(いけたら)				
							ソニーエクスプローラーサイエンス アクアシティお台場で昼食			デックス東京ビーチ						
							昼食カフェ・ポエム		ソニーエクスプローラーサイエンス			東京トリックアート 迷宮館				
							よってこや 昼食		ソニーエクスプローラーサイエンス			ダイバーシティ東京プラザ				

③ 警視庁

警視庁を見学するにあたり、事前に警察の仕事内容について学習した。当日は、大型ビジョンに映るキャラクターと会話をしながら、クイズ形式で交通安全や薬物について学習した。また、展示室にて警視庁の歴史についても触れ、今までテレビでしか見ていなかった警視庁という施設との距離を近づけることができた。



資料 23 警視庁での記念撮影

警視庁 行動計画一覧

行動班			8:05	8:45~9:25	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:40
組	班	班長名(人数)																		
			ホテル出発	警視庁見学	二天門到着		浅草寺・仲見世通り散策 尾張店でうどんを食べる。			上野へ	上野動物園			国立科学博物館				チェック		
							浅草散策・昼食				スイーツ食べる			国立科学博物館						
							浅草散策	上野へ	アメ横			上野動物園								
							浅草散策		駅ビル見学	上野へ	アメ横			上野動物園						
							浅草散策 浅草文化観光センター			上野へ	アメ横	アイス	上野動物園							
							浅草散策			上野へ	東京国立博物館			アメ横			東京文化会館			

④ ユニセフハウス×お台場コース

生徒はユニセフという言葉をよく聞くものの、実際の活動の内容を詳しく知らない。ユニセフハウスを見学した際には、世界の子どもの現状とユニセフの活動についてビデオ視聴やガイドさんの説明で学習した。自分たちとの生活とはかけ離れた、貧困などにあえぐ世界の子どもの現状に驚いていた。そして、自分にできることは何か



資料 24 ユニセフについて説明を受ける生徒

について考える姿が見られた。

ユニセフハウス 行動計画一覧

行動班																		
組	班	班長名（人数）	8:30	9:45-11:45	12:10	12:15	12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:40		
			ホテル出発	ユニセフハウス見学	お台場フジテレビ広場前到着・解散	アクアシティ フードコート		トリックアート 迷宮館	ゆりかもめ		船の科学館駅 →日本科学未来館		ゆりかもめ		チェック			
						アクアシティで昼食 ソニーエクスプローラサイエンス見学										ゆりかもめ →観覧車で写真		チェック
						フジテレビ見学 アクアシティフードコートで昼食					ゆりかもめ	日本科学未来館			ゆりかもめ	チェック		
						日本科学未来館			昼食・デックス東京ビーチ									
						デックス東京ビーチ			日本未来科学館			フジテレビ内見学						
						フジテレビ本社ビル			パナソニックセンター東京			デックス東京ビーチで昼食						

(5) ペンション宿泊

ペンションでは、オーナーさんとのふれあいタイムとして、オーナーさんの人生や仕事、たくさんのお客さんの人生に接した経験について語ってもらった。リーダー会が企画して行った事後のアンケートでは、「修学旅行で生き方について真剣に考えることができたところ」と「修学旅行で一番楽しかったところ」という項目でペンションが1位になった。生徒の感想を見ると、ペンションはこれまでの施設や名所、インタビューを振り返る時間としても有効であったようである。



資料25 ペンションのオーナーさんとの記念写真

(6) 富士自然体験

ここ数年、本校では、富士自然体験として全員に樹海洞窟体験を行ってきた。しかし、今年度は修学旅行のねらい②にある「豊かな情操を育む」をより深めるために、グラススキー、樹海洞窟探検、パラグライダー、ほうとう作りからの選択制にした。旅行会社と各体験の参加人数を何度も打合せし、参加した生徒全員を第一希望の体験先で活動することができた。人数は、グラススキー33名、樹海洞窟探検35名、パラグライダー58名、ほうとう作り9名となった。どの活動でも自分の希望先で楽しそうに自然と親しむ様子が見られた。

① グラススキー体験

グラススキーでは、最初のうちは上手く滑ることができる生徒とうまく滑れない生徒で二極化していた。しかし、時間が経つにつれ、滑れる生徒が滑れない生徒の練習に付き合ったり、アドバイスしたりするなど（資料26）、助け合いながら活動する姿を見ることが多くなった。そして、最後にはほぼ全員がある程度まで滑ることができており、



資料26 練習に付き添いながらアドバイスの生徒の様子

緑豊かな高原で、自然を満喫することができた。

② 樹海洞窟体験

樹海洞窟探検では、洞窟の中を探検するだけではなく、ガイドさんから洞窟のでき方や昔の人がどのように利用していたかについて教わった。また、樹海の中では、リスが松ぼっくりを食べた後に食べかすがエビフライのような形になることから、それを探すゲームを行った。さらに、シカなどの動物たちが木を食べた後を探すゲームも行われ、レクリエーション形式で楽しく自然に親しむことができた。(資料 27)



資料 27 洞窟から出てくるときの様子

③ パラグライダー

事前のパラグライダーの操作方法の説明から意欲的に参加する生徒の姿が見られた。実際に坂を走りながらパラグライダーで宙に浮くことを体験する場面では、高く飛べなかった生徒が楽しさと悔しさの混じったような顔で「もう一回！」と坂を再び走りながら登る姿が何度も見られた。生徒一人一人に補助員がつくため、安全に自然の坂や風を肌で感じながら取り組むことができていた(資料 28)。



資料 28 パラグライダーを体験する様子

④ ほうとう作り

山梨県名物のほうとう作り体験では、ほうとう職人の指導のもと、苦戦しながらも一生懸命に取り組んでいた。伝統的な作り方で名物の味を、自然の中で楽しんで味わうことができたことに対して喜びの声が聞かれた。

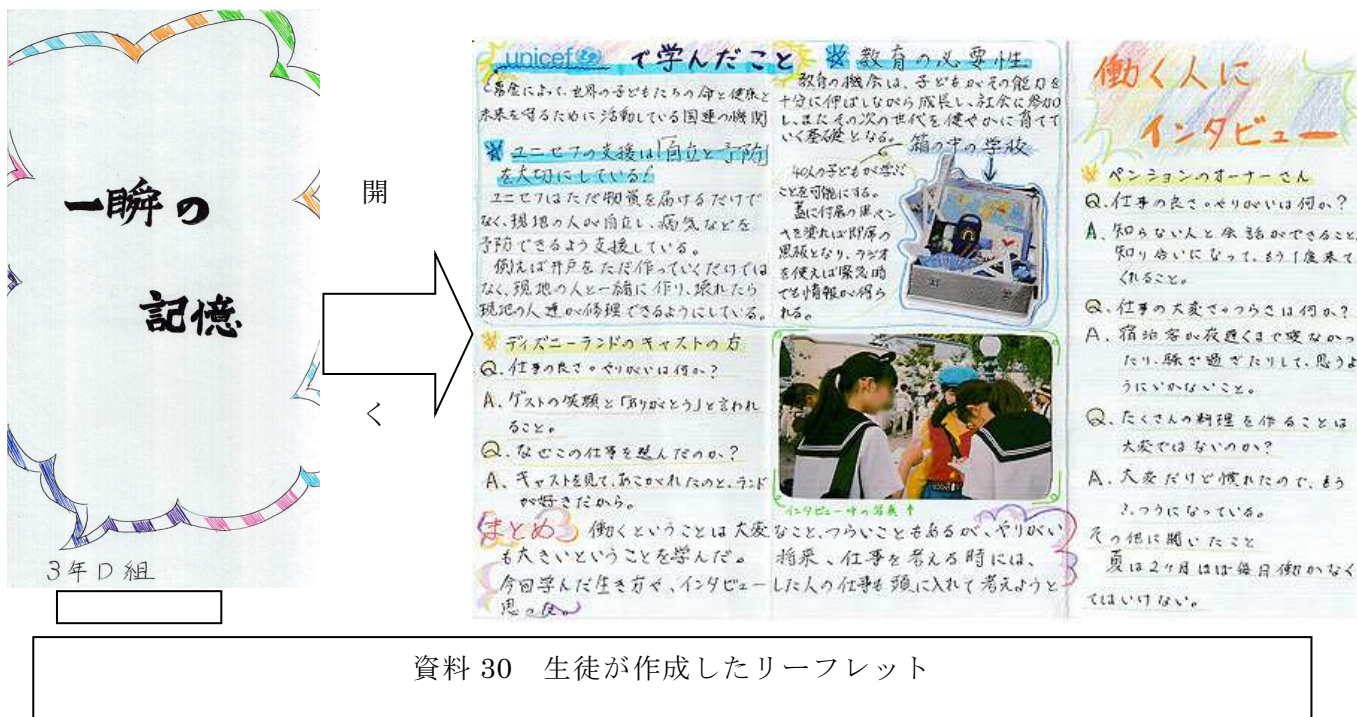


資料 29 ほうとうの麺作りの様子

5 事後の取組について

修学旅行を通して学んだことを 1 枚の画用紙にリーフレットとしてまとめた。このリーフレットは 9 月末に行われる文化祭にて掲示され、保護者の方や後輩に修学旅行の成果として見ていただく。

今回の修学旅行で行った活動を振り返るとともに、再度生きることについて考えを深めるいい機会になった。



資料 30 生徒が作成したリーフレット

Ⅲ おわりに

修学旅行から帰った後の生徒の様子を見てみると、生徒は修学旅行のねらいをある程度達成できたように思う。ねらい①については、首都圏で様々な職種で働く人々とのふれあいや、ペンションにおいて、オーナーさんの人間味あふれる語りを聞かせてもらうことを通して、将来の夢や職業についてじっくり考えたり、よりよく生きるとは、どういうことなのか、探求したりする姿が多く見られた。修学旅行後には、夢や希望を書けない生徒はいなくなった。さらに、ねらい②については、様々な体験を通して、情報を集めながら思考を巡らし、見聞きした知識や自分の考えをリーフレットにまとめることができた。五感を使い、実感を伴って学ぶ体験学習は、広い知見と豊かな情操を育むために、とても意義深い経験となった。最後に、ねらい③については、リーダー会の取組によるルール作りや運営は、生徒の自主性を促し、責任をもって行動することにつながった。学校以上に進んで助け合い、規範意識の高まりが見られ、人間関係形成能力や望ましい生活態度が身につけてきている姿が見られた。修学旅行後もリーダー会が「5つの実行」を呼びかけるなど、引き続き取組が行われている。

修学旅行の様々な活動を通して、自分たちで行動することの成功体験を経て自信をつけたと思われる。今後も、自分の将来に向けて、夢や希望を語り、具体的な人生設計や進路選択につなげられるよう、自ら考えて主体的に行動する生徒の育成に努めていきたい。